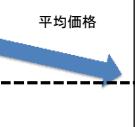
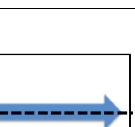
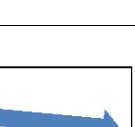
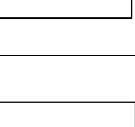
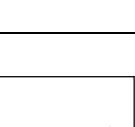
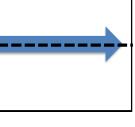
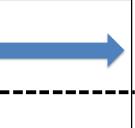
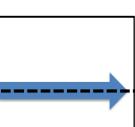
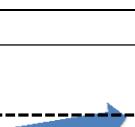
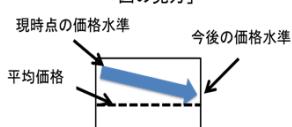
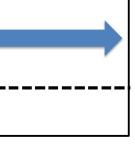
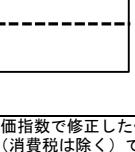


野菜の需給・価格動向レポート(平成28年6月6日版)

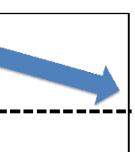
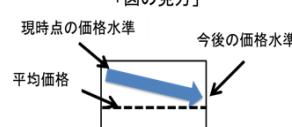
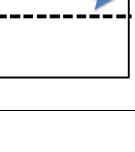
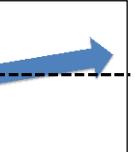
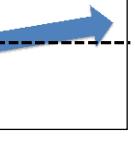
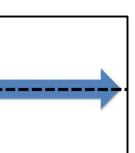
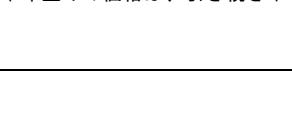
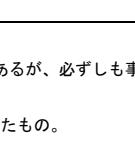
1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	5月の価格情報	6月	入荷量及び主要産地	生育及び価格の6月中旬までの見通し		「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準				
				(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格						
				上旬	中旬	下旬				
葉茎菜類	キャベツ	88.59 67.20	93 (105%)	91 (135%)	88 (131%)	67.20	<ul style="list-style-type: none"> 入荷量: 15,197t 主産地: 千葉 (46)、茨城 (25)、群馬 (11)、神奈川 (7) 		<ul style="list-style-type: none"> 千葉産は、前進傾向となっていることから、平年より多めの出荷となっているものの、今後は平年並みの出荷の見込み。茨城産は、気温が高めで適度な降雨もあり、順調な生育となっていることから、平年並みの出荷となっているものの、今後は前進傾向により、平年よりやや多めの出荷の見込み。 千葉産及び茨城産の出荷が平年並み若しくはやや多めと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。 	
		91.02 81.66	108 (119%)	93 (114%)	105 (129%)	81.66	<ul style="list-style-type: none"> 入荷量: 3,836t 主産地: 茨城 (40)、愛知 (30)、長野 (8)、兵庫 (8) 			
	たまねぎ	78.12 67 (86%)	73 (93%)	103 (132%)	78.12	<ul style="list-style-type: none"> 入荷量: 10,740t 主産地: 佐賀 (36)、兵庫 (21)、香川 (15) 		<ul style="list-style-type: none"> 佐賀産は、天候不順により根や葉の傷みが発生しており、小玉傾向となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。兵庫産及び香川産は、降雨が多いことから病害が発生しており、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 佐賀産、兵庫産及び香川産の出荷が平年よりも少なめ若しくはやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。 		
		78.12 65 (83%)	78 (100%)	121 (155%)	78.12	<ul style="list-style-type: none"> 入荷量: 3,992t 主産地: 兵庫 (57)、佐賀 (23)、長崎 (16) 				
	ねぎ (開葉は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	277.31 535 (193%)	447 (161%)	414 (149%)	277.31	<ul style="list-style-type: none"> 入荷量: 4,129t 主産地: 茨城 (65)、千葉 (21) 		<ul style="list-style-type: none"> 茨城産は、適度な降雨もあり天候に恵まれ太りも良く生育は順調なことから、平年より多めの出荷となっているものの、今後は平年並みの出荷の見込み。千葉産は、天候に恵まれ太りも良く生育は順調なことから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。なお、中国産のねぎの輸入量は、昨年からの寒波の影響により、前年と比較して減少している。 茨城産及び千葉産の出荷が平年並み若しくはやや多めと見込まれることから、現在平年を大幅に上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続きその水準は平年を上回る見込み。 		
		334.73 483 (144%)	495 (148%)	476 (142%)	334.73	<ul style="list-style-type: none"> 入荷量: 213t 主産地: 徳島 (27)、香川 (24)、三重 (14)、奈良 (10)、高知 (7) 				
	はくさい	67.05 60 (89%)	55 (82%)	59 (88%)	67.05	<ul style="list-style-type: none"> 入荷量: 5,543t 主産地: 長野 (56)、茨城 (24) 		<ul style="list-style-type: none"> 長野産は、順調な生育となっており、前進傾向となっていることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。茨城産は、出荷終盤を迎える中、前進出荷となっていたことや病害の影響により、平年よりも切上りが早いと見込まれることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 茨城産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるもの、長野産が平年よりやや多めと見込まれることから、引き続き平年並みに推移する見込み。 		
		74.06 (115%)	85 (119%)	88 (122%)	74.06	<ul style="list-style-type: none"> 入荷量: 2,789t 主産地: 長野 (84)、茨城 (10) 				
	ほうれんそう	376.10 442 (118%)	450 (120%)	483 (128%)	376.10	<ul style="list-style-type: none"> 入荷量: 1,381t 主産地: 群馬 (29)、茨城 (27)、栃木 (15)、岩手 (12) 		<ul style="list-style-type: none"> 群馬産は、干ばつ気味で生育に遅れが生じ、平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は降雨により干ばつも解消されると見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。茨城産は、気温が高めで適度な降雨もあり、順調な生育となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、今年は早めに作付けたが、干ばつ気味で生育に遅れが生じており、引き続き平年並みの出荷の見込み。岩手産は、天候に恵まれ順調な生育となっており、引き続き平年並みの出荷の見込み。 群馬産、茨城産、栃木産及び岩手産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を大幅に上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続きその水準は平年を上回る見込み。 		
		416.73 514 (123%)	518 (124%)	571 (137%)	416.73	<ul style="list-style-type: none"> 入荷量: 490t 主産地: 岐阜 (72)、茨城 (9) 				
	レタス (結球)	156.23 137 (88%)	120 (77%)	142 (91%)	120.13	<ul style="list-style-type: none"> 入荷量: 8,174t 主産地: 長野 (73)、群馬 (19) 		<ul style="list-style-type: none"> 長野産は、天候に恵まれ順調な生育となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 長野産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、平年並みに推移する見込み。 		
		165.00 (94%)	155 (79%)	130 (101%)	125.61	<ul style="list-style-type: none"> 入荷量: 1,833t 主産地: 長野 (95) 				
果菜類	きゅうり	189.84 (120%)	227 (121%)	229 (130%)	189.84	<ul style="list-style-type: none"> 入荷量: 7,221t 主産地: 埼玉 (28)、群馬 (17)、福島 (15)、茨城 (9)、千葉 (8)、栃木 (5) 		<ul style="list-style-type: none"> 埼玉産は、天候に恵まれ順調な生育となっており、平年並みの出荷となっているが、やや前進出荷傾向となっており、今後は前進出荷の影響から平年よりやや少なめの出荷の見込み。群馬産は、一部で病害が散見されるものの、出荷終盤を迎えており、引き続き平年並みの出荷の見込み。福島産は、天候に恵まれ果形も良好で順調な生育となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、気温が高めで天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 群馬産、福島産及び茨城産の出荷が平年並み若しくはやや多めと見込まれるもの、埼玉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。 		
		186.08 (126%)	234 (127%)	237 (131%)	186.08	<ul style="list-style-type: none"> 入荷量: 1,653t 主産地: 宮崎 (22)、高知 (16)、愛媛 (14)、群馬 (11)、福島 (8)、香川 (7)、徳島 (6) 				
	トマト (大玉)	230.55 (120%)	277 (106%)	245 (112%)	230.55	<ul style="list-style-type: none"> 入荷量: 9,208t 主産地: 栃木 (23)、千葉 (13)、熊本 (13)、茨城 (11)、愛知 (10)、埼玉 (5)、群馬 (4) 		<ul style="list-style-type: none"> 栃木産は、一部で病害が散見されるものの、おおむね生育は順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は小玉傾向となっており、着色の遅れもみられ、平年より少なめの出荷となっているものの、今後は無加温作の増加に伴い、出荷量は回復し平年並みの出荷の見込み。熊本産は、4月、5月の前進傾向の影響から平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は平年並みの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 栃木産、千葉産、熊本産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。 		
		239.96 (119%)	285 (110%)	265 (113%)	239.96	<ul style="list-style-type: none"> 入荷量: 1,853t 主産地: 熊本 (46)、北海道 (15)、愛知 (8)、石川 (7) 				
	なす	311.92 (124%)	386 (126%)	392 (127%)	396 (127%)	<ul style="list-style-type: none"> 入荷量: 4,087t 主産地: 高知 (32)、福岡 (15)、群馬 (14)、栃木 (10)、茨城 (10) 		<ul style="list-style-type: none"> 高知産は、5月の天候不順の影響で着果不良となり、平年より少なめの出荷となっており、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。福岡産は、出荷終盤を迎える中、平年並みの出荷となっているものの、今後は前進出荷の影響から、平年よりやや少なめの出荷の見込み。栃木産は、定植期に適度な降雨があり、天候に恵まれ順調な生育となったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 栃木産の出荷が平年並みと見込まれるもの、高知及び福岡産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。 		
		271.01 (133%)	361 (137%)	372 (134%)	364 (134%)	<ul style="list-style-type: none"> 入荷量: 1,104t 主産地: 高知 (27)、大阪 (19)、熊本 (14)、福岡 (12)、岡山 (7)、山梨 (6) 				
	ピーマン	339.20 (131%)	445 (110%)	372 (102%)	345 (102%)	<ul style="list-style-type: none"> 入荷量: 2,818t 主産地: 茨城 (83) 		<ul style="list-style-type: none"> 茨城産は、気温が高めに推移し天候に恵まれ、順調な生育となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年並みと見込まれる価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。 		
		311.41 (131%)	408 (108%)	335 (92%)	288 (92%)	<ul style="list-style-type: none"> 入荷量: 517t 主産地: 宮崎 (29)、高知 (28)、茨城 (17) 				
根菜類	だいこん	86.59 (107%)	93 (111%)	96 (95%)	82 (95%)	<ul style="list-style-type: none"> 入荷量: 8,228t 主産地: 青森 (52)、千葉 (24) 		<ul style="list-style-type: none"> 青森産は、天候に恵まれ順調な生育となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、春先の天候不順による生育の遅れから回復し、平年よりやや多めの出荷となっているものの、今後は平年並みの出荷の見込み。 青森産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、平年並みに推移する見込み。 		
		89.53 (90%)	81 (89%)	80 (77%)	69 (77%)	<ul style="list-style-type: none"> 入荷量: 2,488t 主産地: 青森 (43)、北海道 (35) 				
	にんじん	156.99 (123%)	193 (120%)	189 (82%)	128 (82%)	<ul style="list-style-type: none"> 入荷量: 6,727t 主産地: 千葉 (72)、埼玉 (9) 		<ul style="list-style-type: none"> 千葉産は、天候に恵まれ肥大も良く順調な生育となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。 		
		148.36 (122%)	181 (113%)	168 (79%)	117 (79%)	<ul style="list-style-type: none"> 入荷量: 1,778t 主産地: 長崎 (42)、和歌山 (27)、青森 (8)、兵庫 (8) 				

種類	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	5月の価格情報			6月 (参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	入荷量及び主要産地	生育及び価格の6月中旬までの見通し			「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準			
		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額					入荷量及び主要産地						
		上旬	中旬	下旬			上旬	中旬	下旬				
いも類	さといも	-	360	396	474	361.20	・入荷量: 273t ・主産地: 鹿児島 (58)、宮崎 (14)、千葉 (12)		・鹿児島産は、前年からの病害と種いもを優先的に確保したことから、平年の半分の出荷となっていることから、今後は前倒しで収穫をしているものの、平年より少なめの出荷の見込み。宮崎産は、前年から続く病害の影響で、作付面積の減少により、平年より少なめの出荷となっているものの、今後は平年並みの出荷の見込み。				
		-	482	567	591	347.90	・入荷量: 51t ・主産地: 鹿児島 (63)、中国 (32)、宮崎 (5)		・宮崎産の出荷が平年並みと見込まれるもの、鹿児島産の出荷が平年より少なめの出荷と見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。				
	ばれいしょ	138.39 (132%)	182 (134%)	186 (153%)	212	138.39	・入荷量: 8,759t ・主産地: 長崎 (52)、静岡 (15)、茨城 (11)、千葉 (9)		・長崎産は、寒波の影響から収穫が遅れたために、平年より少なめの出荷となっており、今後も玉生りが少ないとことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。静岡産は、生育は概ね順調で出荷も順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。				
		144.98 (121%)	175 (130%)	189 (145%)	210	144.98	・入荷量: 2,041t ・主産地: 長崎 (66)、北海道 (17)、熊本 (6)		・静岡産の出荷が平年並みと見込まれるもの、長崎産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を大幅に上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。				

注: 1 平均価格は、過去6ヵ年間(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価額の赤字は平均価格を150%以上回るもの、背景あるいは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/k g、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5ヵ年平均の数値である。
5 主産地は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年見込み、近畿は前年実績。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価額を一部の品目に引き分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。
8 キャベツの平均価格は、上段が5月1~15日まで、下段は5月16日~31までの価格である。

種類	(参考)過去5ヵ年平均価格	5月の価格情報			入荷量及び主要産地	生育及び価格の6月中旬までの見通し			「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準		
		東京・大阪市場の旬別価格				入荷量及び主要産地					
		上旬	中旬	下旬		上旬	中旬	下旬			
洋菜類	ブロッコリー	313.45 (146%)	459 (145%)	454 (133%)	416	371.45	・入荷量: 1,683t ・主産地: 長野 (28)、福島 (14)、青森 (13)、米国 (11)		・長野産は、干ばつ気味であるものの、生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。福島産は、天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。青森産は、天候に恵まれ生育は順調で、作付面積が増加していることから、引き続き平年よりやや多め出荷の見込み。		
		339.76 (130%)	443 (123%)	418 (124%)	420	376.30	・入荷量: 476t ・主産地: 長野 (28)、鳥取 (17)、徳島 (15)、香川 (12)、北海道 (5)		・長野産及び福島産の出荷が平年並みと見込まれるもの、青森産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。		
	アスパラガス	1159.23 (123%)	1,428 (102%)	1,178 (104%)	1,205	1103.17	・入荷量: 765t ・主産地: 北海道 (23)、佐賀 (18)、長崎 (11)、栃木 (8)		・北海道産は、気温が低く降雨もあったことから、引き続き平年よりやや少なめ出荷の見込み。佐賀産は、全体的に細物がやや多く平年より少なめの出荷となっている。今後は夏芽の収穫が始まり徐々に出荷が増えるものの、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。長崎産は、生育期の天候不順の影響で平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は夏芽の出荷が増加していくことから、平年並みの出荷の見込み。栃木産は、生育は順調で、作付面積が増加していることもあり、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。		
		1317.00 (118%)	1,549 (110%)	1,450 (105%)	1,389	1093.69	・入荷量: 156t ・主産地: 佐賀 (26)、福岡 (25)、長崎 (24)、タイ (14)		・長崎産及び栃木産の出荷が平年並み若しくはやや多めと見込まれるもの、北海道産及び佐賀産が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年並みの価格は、平年を上回って推移する見込み。		
葉茎菜類	こまつな	214.35 (92%)	198 (84%)	179 (84%)	230	253.63	・入荷量: 962t ・主産地: 茨城 (39)、埼玉 (26)、群馬 (14)、東京 (10)		・茨城産は、天候に恵まれ生育は順調で、作付面積の増加もあることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。埼玉産は、天候に恵まれ生育は順調であるものの、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。群馬産は、5月中旬に雨が少なく、干ばつ気味となっていることから生育が遅れており、平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は干ばつも解消されることから、平年並みの見込み。		
		167.98 (106%)	178 (118%)	198 (118%)	218	205.03	・入荷量: 294t ・主産地: 福岡 (76)		・埼玉産及び群馬産の出荷が平年よりやや少なめ若しくは平年並みと見込まれているものの、茨城産が平年より多めと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年を並みに推移する見込み。		

注: 1 平均価格は、過去5ヵ年(平成23~27年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/k gである。
3 旬別価格の赤字は、平均価格を150%以上回るもの、背景あるいは平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5ヵ年平均の数値である。
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで前年実績である。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。

2 野菜の輸出入動向 一 輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入先について 一										
野菜の輸入数量										
区分	平成25年 前年比	平成26年 前年比		平成27年 前年比		平成28年4月 前年同月比		平成28年1月~4月 前年同期比		野菜の輸出数量 (単位:トン)
		平成26年 前年比	平成27年 前年比	平成28年4月 前年同月比	平成28年1月~4月 前年同期比	平成25年 前年比	平成26年 前年比	平成27年 前年比	平成28年4月 前年同月比	
貿易統計によると、4月の野菜の輸入量は、生鮮野菜が、7万6千トン(前年同月比89%)、加工野菜が14万7千トン(同88%)、野菜全体では、22万3千トン(同88%)となった。このうち、中国産野菜合計は10万4千トン(同88%)となった。										
生鮮野菜を含め、すべての項目が前年を下回ったため、野菜全体でも前年をかなりの程度下回った。										
また、中国産の野菜の輸入量が野菜の輸入量合計の50%を下回った。										
また、輸出量は、生鮮野菜が、2,736トン(同328%)、加工野菜が、1,860トン(同122%)、野菜全体では4,506トン(同195%)となった。生鮮野菜が前年を大幅に上回ったことから、野菜全体では前年の約2倍近い輸出量となつた。										
主な野菜の輸入先(平成28年4月) (単位:トン)										
	合計	1位		2位		3位		野菜の輸出数量 (単位:トン)		
		国名	数量	国名	数量	国名	数量			
ばれいしょ	4,460	アメリカ	4,460							
たまねぎ	19,462	中国	15,838	ニュージーランド	3,078	オーストラリア	546			
かぼちゃ	19,860	ニュージーランド	19,664	メキシコ	195					
メロン	4,085	メキシコ	4,076	韓国	9					
にんじん及びかぶ	4,472	中国	3,623	ベトナム	456	台湾	393			
ねぎ	3,552	中国	3,552		0					
ごぼう	3,730	中国	3,545	台湾	184					
ジャンボピーマン	3,570	韓国	3,082	ニュージーランド	333	オランダ	156			
主な野菜の輸出先(平成28年4月) (単位:トン)										